

1 梨の肥大状況

梨の果実肥大は、7月10日の無作為調査の結果では、「幸水」の横径が54.9mmと前年、平年と比べやや小さくなっています(前年値57.9mm 平年値58.5mm)。

2 黒星病の発生状況

①果実、葉等の発病状況

7月11日の発病状況調査結果では、「幸水」、「豊水」の果そう葉、新梢葉でやや多い傾向ですが、果実への発病は、本年6月中旬調査からほとんど増加しておらず、昨年と同程度です。

表 H30年 黒星病発生状況(調査日:7月11日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
					葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	14.9	1.4	0.6	2.7	5.7	2.8	3.6	0.2
豊水	27	17.3	1.6	0.5	3.0	8.1	2.4	3.9	0.1
新高	14	4.4	0.1	0.1	1.0	3.2	0.0	0.2	0.0
あきづき	4	11.5	1.0	0.0	3.5	5.0	2.0	0.5	0.0
合計・平均	113	14.1	1.2	0.5	2.6	5.9	2.3	3.1	0.2

H27年: 28.8%

【参考: 昨年同時期の発生状況】

表 黒星病発生状況(調査日:7月12日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
					葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	7.7	1.2	0.4	2.0	1.9	2.3	0.3	0.1
豊水	27	13.6	0.9	0.5	3.2	4.3	5.2	0.7	0.0
新高	14	2.0	0.3	0.0	0.9	0.6	0.1	0.1	0.0
あきづき	4	3.5	2.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
合計・平均	113	8.2	1.0	0.3	2.1	2.3	2.7	0.4	0.0

②気象データによる感染危険度・発病危険度(千葉梨防除ナビより)

4月10日~7月10日の間で、感染危険度は24回とかなり多く記録され、危険度指数は4.6と高い状況でした。

特に、開花期や幼果期にあたる4~5月の回数・指数の高さが本年の発生の多さの要因と考えられます。

<黒星病感染危険度の発生回数および指数>

	4月	5月	6月	7月(10日まで)	計
H30年	7 (4.1)	9 (5.1)	4 (2.8)	4 (6.3)	24 (4.6)
H29年	3 (1.6)	10 (2.4)	15 (3.0)	8 (3.7)	36 (2.8)
H28年	4 (3.0)	3 (5.0)	8 (2.1)	2 (1.5)	17 (2.8)

※ () 数値は、感染危険度指数(0~9までの10段階評価)

☆重要☆:

●7月5~7日の低温・長雨により感染危険度が高まったことから、潜伏期間を経た7月20日以降の「果実」への発病に注意が必要です。

3 これからの防除について

☆今後、収穫期間中の罹病果実と秋型病斑葉の発生防止のため、計画防除に2回の特別防除を加え対策を強化します。

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
16	7月27日～29日	オーソサイド水和剤 80 1,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	3日 前日	300 ㍉	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	
特散	8月2日～3日 防除前に草刈りを!	ナリア WDG 2,000倍	前日	400 ㍉	黒星病	
		マイトコーネフロアブル 1,500倍	前日		ハダニ類	
特散	9月初旬 (「幸水」収穫終了後)	フルーツセイバー (特別防除) 3,000倍	前日	300 ㍉	黒星病 シンクイムシ類 カメムシ類	
		ダントツ水溶剤 4,000倍	前日			
特散	10月初旬 (「あきづき」 収穫終了後)	オーソサイド水和剤80 (特別防除) 1,000倍	3日	300 ㍉	黒星病	

※ナリアは9月初旬実施計画を繰り上げた防除となります。

※フルーツセイバーは、全品種が防除対象となります。
※ダントツ水溶剤は、「幸水」以外の品種（これから収穫される品種）が防除対象となります。

※オーソサイド水和剤80は、全品種が防除対象となります。

【注意事項】

- これからの防除は、収穫期付近あるいは収穫期間中となるので農薬の使用基準（収穫前日数）に十分注意して下さい。
「収穫前日」の場合、散布後24時間以上あけて収穫し、周囲の収穫園にも気を配りましょう。 収穫中の梨にかかった場合は、収穫は散布後24時間以降に実施して下さい。
- マイトコーネフロアブル散布後、ハダニ類の発生が見られた場合は、コロマイト水和剤（2,000倍、収穫前日まで、400㍉/10a）を散布して下さい。
- 徒長枝などへの黒星病（秋型病斑葉）の発生を防止するため、「幸水」収穫終了後と、「あきづき」収穫終了後に特別防除（フルーツセイバー及びオーソサイド水和剤）を実施しますので、薬剤の準備をお願いします。
(※防除日は、「幸水」「あきづき」の収穫状況を見極めて決定し、8月末および9月末にお知らせします)

4 補正摘果基準 ☆着果過多の園では速やかに実施しましょう! ☆

◆「幸水」の目安（満開日が4月12日の場合） ◆「豊水」の目安（満開日が4月8日の場合）

大きさ(横径)	7月18日	7月24日	大きさ(横径)	7月25日	7月28日	7月31日	8月3日
44玉基準	57.5 mm	62.5 mm	40玉基準	60.5 mm	62.9 mm	65.1 mm	67.2 mm

5 除草剤の使用基準について

除草剤の使用に当たっては、下記の使用基準を遵守して下さい。

- 収穫前日まで使用可能：バスタ液剤（年3回以内）、プリグロックスL（年5回以内）
- 収穫7日前まで使用可能：ラウンドアップハイロード、ラウンドアップマックスロード、サンファーロン液剤、草枯らしMIC（合わせて年3回以内）